

高齢期のケア付き住宅に団塊世代が期待する条件

ササキ テアキ イマイ ユキミチ
佐々木 千晶*1 今井 幸充*2

目的 高齢者のニーズの変化に即した将来的なケア付き住宅のあり方を検討するための基礎的資料として、団塊世代がケア付き住宅に求める条件の構造を示し、それらに対する期待度の違いからケア付き住宅に対する志向タイプを分類することを目的とした調査を行った。

方法 東京都A区の住民基本台帳から無作為抽出した昭和22～25年生まれの男女3,039名（女性1,522名、男性1,517名）を対象とし、2006年2月6～20日にかけて郵送法によるアンケートを実施した。質問内容として高齢期のケア付き住宅に必要な条件40項目に対する期待度を7件法で尋ね、探索的因子分析により妥当な解釈が可能な因子構造を確認した。次に回答者の志向タイプを分類するために、設定された因子の因子得点によるクラスター分析を行ってそれぞれの志向タイプの特徴を検討した上で、志向タイプと個人属性の関連を χ^2 検定により検討した。

結果 回収された393名（回収率12.9%）のうち、年齢の項目で55～59歳と回答され、ケア付き住宅に必要な条件40項目に欠損値がない342名（有効回答割合11.3%）を分析対象とした。探索的因子分析の結果からはケア付き住宅に必要な機能として「安全・快適」「コミュニティ機能」「自律性」の3因子が示された。因子得点によるクラスター分析の結果では、「個人志向タイプ」「交流・快適志向タイプ」「平均タイプ」「独立・快適志向タイプ」「控えめタイプ」の5タイプに分けられた。回答者の属性とタイプとの関連では、性別とタイプとの関連に有意差が認められ、女性では男性よりも「交流・快適志向タイプ」が多く「控えめタイプ」が少なかった。健康状態が「良い」グループでも同様の傾向がみられた。

結論 団塊世代がケア付き住宅に求める機能として「安全・快適」「コミュニティ機能」「自律性」の3領域が示された。回答者のクラスター分析の結果では、全ての領域で期待度が高い「交流・快適志向タイプ」が全体の1/4を占め、特にケア付き住宅の利用者の多数派となる女性でこの割合が高かった。これらのことから、将来のケア付き住宅には「交流・快適志向タイプ」の要求を満たすサービス水準が必要になることが示唆された。

キーワード ケア付き住宅、団塊世代、高齢者、志向タイプ、利用者のニーズ

はじめに

高齢者の居住型サービスの将来像を考えるに当たっては、現在50代後半～60歳に達している「団塊世代」が高齢化するにつれて、それぞれの価値基準に応じた多様なニーズに対するサー

ビスへの欲求が高まることが予想されている¹⁾。これからのケア付き住宅は将来の居住者である団塊世代の意見を反映したものである必要があり、そのためには、まず、現時点での団塊世代の意識や要望を的確に把握することが重要である。本研究では高齢者のニーズの変化に対応し

* 1 日本社会事業大学大学院社会福祉学研究科博士後期課程 * 2 同福祉マネジメント研究科教授

た将来的なケア付き住宅のあり方を検討するために、利用者の視点に基づいてケア付き住宅に必要な機能の構造を示し、利用者の志向タイプを検討することを目的とした。

方 法

(1) 対象者と手続き

東京都A区の住民基本台帳から無作為抽出し

表1 分析対象者の属性 (N=342)

	度数	%
性別		
男性	139	40.6
女性	203	59.4
年齢		
55歳	54	15.8
56	71	20.8
57	86	25.1
58	105	30.7
59	26	7.6
家族構成		
単身世帯(本人のみ)	52	15.2
単身赴任	2	0.6
本人+親	21	6.1
本人+子	19	5.6
夫婦のみ	51	14.9
夫婦+未婚の子	134	39.2
夫婦+子供夫婦	2	0.6
夫婦+子供夫婦+孫	2	0.6
その他・無回答	59	17.3
職業		
会社員	92	26.9
会社経営者・役員	31	9.1
公務員・団体職員	19	5.6
自営業	46	13.5
自由業	10	2.9
派遣・契約社員	3	0.9
パート・アルバイト	51	14.9
専業主婦	56	16.4
無職	26	7.6
その他・無回答	8	2.3
健康状態		
良い	149	43.6
まあ良い	149	43.6
あまり良くない	37	10.8
良くない	7	2.0
暮らし向き		
家計にゆとりがあり全く心配ない	59	17.3
あまりゆとりはないがそれほど心配ない	204	59.6
ゆとりがなくやや心配である	56	16.4
家計が苦しく非常に心配だ	23	6.7
住宅形態		
一戸建て	138	40.4
二世帯住宅	26	7.6
集合住宅	170	49.7
その他	8	2.3
住宅の所有形態		
自己所有	274	80.1
賃貸	50	14.6
社宅・公舎	6	1.8
その他・無回答	12	3.5
高齢期の住み替え計画		
ある	137	40.1
ない	200	58.5
無回答	5	1.5

た昭和22～25年生まれの男女3,039名(女性1,522名,男性1,517名)に対し、2006年2月6～20日にかけて郵送法によるアンケートを実施した。

(2) 質問内容

利用者の視点からケア付き住宅に必要な条件を示す内容を収集するために、ケア付き住宅での生活に対する要望を尋ねる在宅生活者83名に対する自由記述のアンケートとケア付き住宅居住者33名へのインタビューを行った。回答内容を検討し、ケア付き住宅に必要な条件として「安全・快適(下位カテゴリー:「安全」「快適」「生活支援)」、「自律性(下位カテゴリー:「選択」「活動」「プライバシー)」、「コミュニティ機能(下位カテゴリー:「個人的な関わり」「パブリックな関わり)」の3領域8カテゴリーを設定し、各カテゴリー5項目計40項目の質問項目を作成した(表2)。回答形式としては「あなたが将来身体機能が低下して日常生活に介護が必要になり、高齢者のためのケア付きの居住施設を利用するとしたら、次に挙げる条件はあなたにとってどの程度必要でしょうか」という提示により、「全く必要でない(1点)」から「絶対必要である(7点)」までの7段階で評定を求めた。個人属性としては、性別・年齢・家族構成・職業・健康状態・現在の暮らし向き・現在の住宅形態・現在の住宅の所有形態・高齢期の住み替え予定の有無と住み替え先について選択式で回答を求めた。

(3) 分析方法

ケア付き住宅に必要な条件40項目に対して探索的因子分析(最尤法,プロマックス回転)を行い、因子構造を確認した。項目の選択には、因子負荷量の絶対値が0.35以上で複数の因子で0.35以上としないことを基準とした。得られた因子の因子得点を用いてWard法によるクラスター分析を行い、各クラスターの特徴を検討した。また属性と各クラスターとの関連を χ^2 検定により検討した。分析にはSPSS 14.0Jを使用した。

結果

回収された393名（回収率12.9%）のうち、年齢の項目で55～59歳と回答され、ケア付き住宅に必要な条件40項目に欠損値がない342名（有効回答割合11.3%）を分析対象とした。回答者の属性は表1に示した通りであった。

ケア付き住宅に必要な条件40項目の回答分布を、質問項目作成時に当てはめた領域・カテゴリごとに示した（表2）。事前に設定した3領域を確認するためにこれらの40項目に対して3因子による因子分析を行った結果、39項目により「安全・快適」「コミュニティ機能」「自律性」の3因子が抽出された（表3）。全項目の平均得点は4.68～6.70で、「安全・快適」の項

表2 ケア付き住宅に必要な条件40項目の回答分布（N=342）

（単位 人、（ ）内%）

領域	質問項目	絶対必要である	かなり必要である	やや必要である	どちらともいえない	あまり必要でない	ほとんど必要でない	全く必要でない	平均得点	標準偏差
安全・快適	安全									
	病気がけがをした時に、すぐ病院を受診できる	221(64.6)	100(29.2)	16(4.7)	4(1.2)	-(-)	1(0.3)	-(-)	6.56	0.69
	医療スタッフが常駐し、病気がけがの時に対応できる	163(47.7)	109(31.9)	55(16.1)	9(2.6)	3(0.9)	3(0.9)	-(-)	6.20	0.96
	居室内で倒れた時、確実に職員に連絡できる	261(76.3)	67(19.6)	8(2.3)	4(1.2)	2(0.6)	-(-)	-(-)	6.70	0.63
	防災対策が十分に整っている	248(72.5)	72(21.1)	16(4.7)	6(1.8)	-(-)	-(-)	-(-)	6.64	0.66
	外部からのセキュリティがしっかりしている	165(48.2)	114(33.3)	50(14.6)	9(2.6)	3(0.9)	1(0.3)	-(-)	6.25	0.90
	快適									
	清潔な環境が保たれている	169(49.4)	137(40.1)	34(9.9)	1(0.3)	1(0.3)	-(-)	-(-)	6.38	0.70
	居室や共有スペースの冷暖房が完備している	166(48.5)	122(35.7)	45(13.2)	7(2.0)	2(0.6)	-(-)	-(-)	6.30	0.82
	建物内の設備は不自由なく使用できるよう工夫されている	112(32.7)	162(47.4)	59(17.3)	6(1.8)	1(0.3)	2(0.6)	-(-)	6.09	0.83
	居室は日当たりがよく明るい部屋である	115(33.6)	153(44.7)	64(18.7)	10(2.9)	-(-)	-(-)	-(-)	6.09	0.80
	周辺が静かな環境である ¹⁾	23(6.7)	77(22.5)	114(33.3)	89(26.0)	30(8.8)	4(1.2)	5(1.5)	4.83	1.19
生活支援										
必要な時にはいつでも職員に支援を求めることができる	121(35.4)	138(40.4)	74(21.6)	6(1.8)	2(0.6)	1(0.3)	-(-)	6.07	0.86	
病気の時には居室でサービスが受けられる	133(38.9)	138(40.4)	54(15.8)	12(3.5)	4(1.2)	1(0.3)	-(-)	6.11	0.91	
職員はゆとりをもって仕事をしている	112(32.7)	142(41.5)	61(17.8)	24(7.0)	2(0.6)	-(-)	1(0.3)	5.98	0.96	
自分では難しい手続きなどを代行してもらえる	73(21.3)	139(40.6)	107(31.3)	18(5.3)	5(1.5)	-(-)	-(-)	5.75	0.90	
必要な買い物施設に頼むことができる	53(15.5)	124(36.3)	139(40.6)	20(5.8)	4(1.2)	2(0.6)	-(-)	5.57	0.90	
自律性	選択									
	食事はいくつかのメニューから選ぶことができる	53(15.5)	135(39.5)	111(32.5)	20(5.8)	15(4.4)	5(1.5)	3(0.9)	5.48	1.14
	好きな時間に入浴できる	63(18.4)	90(26.3)	107(31.3)	43(12.6)	31(9.1)	7(2.0)	1(0.3)	5.25	1.29
	備品や生活用品は、自分の好みのものが使用できる	41(12.0)	106(31.0)	125(36.5)	26(7.6)	35(10.2)	7(2.0)	2(0.6)	5.18	1.23
	1日を通して自由に過ごすことができる	94(27.5)	161(47.1)	73(21.3)	10(2.9)	4(1.2)	-(-)	-(-)	5.97	0.84
	それまでの生活習慣を保った暮らしができる	47(13.7)	124(36.3)	117(34.2)	39(11.4)	14(4.1)	1(0.3)	-(-)	5.43	1.02
	活動									
	必要時には付きそいのサービスがあり、希望する時に外出できる ²⁾	70(20.5)	144(42.1)	108(31.6)	16(4.7)	2(0.6)	2(0.6)	-(-)	5.75	0.89
	図書館や映画館など、外部の施設が利用できる	56(16.4)	117(34.2)	124(36.3)	21(6.1)	19(5.6)	3(0.9)	2(0.6)	5.45	1.12
	部屋の中で自分の好きな趣味などの活動が行える	75(21.9)	121(35.4)	114(33.3)	20(5.8)	11(3.2)	1(0.3)	-(-)	5.66	1.01
	軽い運動や趣味活動ができる設備がある ²⁾	54(15.8)	149(43.6)	125(36.5)	12(3.5)	2(0.6)	-(-)	-(-)	5.70	0.79
	自分の経験や知識を活かすことができる場がある ²⁾	36(10.5)	102(29.8)	119(34.8)	61(17.8)	20(5.8)	4(1.2)	-(-)	5.18	1.10
プライバシー										
居室は個室か夫婦部屋が利用できる	162(47.4)	102(29.8)	41(12.0)	24(7.0)	8(2.3)	3(0.9)	2(0.6)	6.08	1.17	
職員は許可がなければ居室に立ち入らない	66(19.3)	73(21.3)	79(23.1)	98(28.7)	17(5.0)	2(0.6)	7(2.0)	5.11	1.36	
部屋ごとに個別のバス・トイレがある	89(26.0)	112(32.7)	71(20.8)	43(12.6)	20(5.8)	1(0.3)	6(1.8)	5.53	1.33	
居室には鍵がかけられる	136(39.8)	85(24.9)	64(18.7)	37(10.8)	12(3.5)	4(1.2)	4(1.2)	5.78	1.33	
介助が必要になっても個別に入浴ができる	91(26.6)	127(37.1)	74(21.6)	40(11.7)	9(2.6)	-(-)	1(0.3)	5.72	1.09	
コミュニティ機能	個人的関わり									
	居住者同士の交流が盛んである	18(5.3)	61(17.8)	141(41.2)	90(26.3)	24(7.0)	6(1.8)	2(0.6)	4.80	1.07
	日常生活で困った時に、他の居住者と助け合える	41(12.0)	106(31.0)	145(42.4)	40(11.7)	7(2.0)	2(0.6)	1(0.3)	5.36	0.98
	他の居住者と友達付き合いができる	32(9.4)	101(29.5)	147(43.0)	53(15.5)	7(2.0)	1(0.3)	1(0.3)	5.27	0.95
	居住者同士が気軽に部屋を行き来できる	33(9.6)	80(23.4)	107(31.3)	77(22.5)	34(9.9)	8(2.3)	3(0.9)	4.90	1.26
	話し相手になれる職員がいる	60(17.5)	121(35.4)	113(33.0)	32(9.4)	12(3.5)	3(0.9)	1(0.3)	5.50	1.08
	パブリックな関わり									
	居住者が皆で参加できる催し物や行事がある	32(9.4)	73(21.3)	158(46.2)	45(13.2)	26(7.6)	7(2.0)	1(0.3)	5.04	1.12
	居住者が一緒に楽しめる活動の機会がある	23(6.7)	96(28.1)	155(45.3)	54(15.8)	11(3.2)	2(0.6)	1(0.3)	5.16	0.95
	集会所のような共同で使える設備がある	48(14.0)	105(30.7)	132(38.6)	44(12.9)	10(2.9)	3(0.9)	-(-)	5.37	1.03
	居住者の自治会が組織されている	21(6.1)	64(18.7)	96(28.1)	121(35.4)	29(8.5)	6(1.8)	5(1.5)	4.68	1.19
	居住者が集まれる談話室がある	38(11.1)	87(25.4)	164(48.0)	37(10.8)	15(4.4)	-(-)	1(0.3)	5.27	0.98

注 1) 因子分析での除外項目

2) 因子分析の結果、異なる領域に分類された項目

目では全体に平均得点が高く「コミュニティ機能」の平均得点はやや低い傾向がみられた。因子ごとの平均得点は「安全・快適」が6.16,「自律性」が5.55,「コミュニティ機能」が5.19であった。因子の内的整合性を示すCronbachの係数は、「安全・快適」で0.909,「コミュニティ機能」で0.901,「自律性」で0.855,全項目では0.937と高い値を示した。各項目の分類は質問作成時に当てはめた領域とほぼ一致した。

3因子の因子得点を用いてクラスター分析を行い, Ward法による5クラスターの分類を採用した。各クラスターの特徴から, 第1クラスターを「個人志向タイプ」(29人, 8.5%), 第2クラスターを「交流・快適志向タイプ」(80人, 23.4%), 第3クラスターを「平均タイプ」(141人, 41.2%), 第4クラスターを「独立・快適志向タイプ」(43人, 12.6%), 第5クラスターを「控えめタイプ」(49人, 14.3%)とした(図1)。

志向タイプと属性の関連のクロス集計の結果を表4に示した。「性別」と志向タイプに有意差が認められ, 女性では「交流・快適志向タイプ」が多く「控えめタイプ」が少なかった。有意差は認められなかったが, 健康状態が「良い」グループでも同様の傾向がみられた。

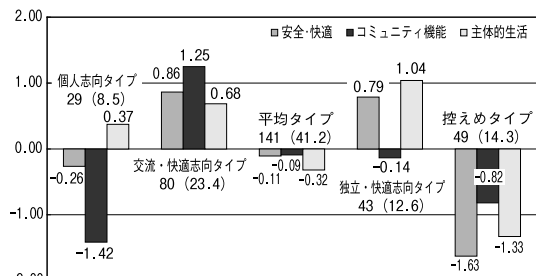
考 察

ケア付き住宅に必要な条件40項目に対する探索的因子分析の結果では, 第1因子「安全・快適」, 第2因子「コミュニティ機能」, 第3因子「自律性」の3因子が抽出された。「周辺は静かな環境である」の項目は因子抽出の基準を満たさなかったため除外された。この項目は平均得点が4.83と「安全・快適」の領域の項目では

表3 ケア付き住宅に必要な条件の因子分析

	項 目	因子1	因子2	因子3
安全・快適	病気やけがをした時に, すぐ病院を受診できる	0.844	-0.073	-0.103
	防災対策が十分に整っている	0.827	-0.052	-0.193
	居室や共有スペースの冷暖房が完備している	0.729	-0.082	0.042
	清潔な環境が保たれている	0.698	-0.108	0.084
	外部からのセキュリティがしっかりしている	0.679	-0.052	-0.005
	必要な時にはいつでも職員に支援を求めることができる	0.664	0.047	0.069
	医療スタッフが常駐し, 病気やけがの時に対応できる	0.656	0.091	-0.097
	建物内の設備は不自由なく使用できるよう工夫されている	0.649	0.040	0.021
	居室内で倒れた時に, 確実に職員に連絡できる	0.621	-0.058	0.013
	必要な買い物施設に頼むことができる	0.463	0.132	0.099
	居室は日当たりがよく明るい部屋である	0.437	0.075	0.117
	病気の時には居室でサービスが受けられる	0.436	0.129	0.187
	職員はゆとりをもって仕事をしている	0.391	0.121	0.096
自分では難しい手続きなどを代行してもらえる	0.388	0.104	0.037	
必要時には付きそいのサービスがあり, 希望する時に外出できる	0.357	0.143	0.278	
コミュニティ機能	居住者が一緒に楽しめる活動の機会がある	0.030	0.881	-0.172
	居住者が集まれる談話室がある	0.094	0.830	-0.156
	居住者同士の交流が盛んである	-0.068	0.804	-0.019
	他の居住者と友達付き合いができる	-0.003	0.782	-0.034
	居住者が皆で参加できる催し物や行事がある	-0.068	0.710	0.001
	日常生活で困った時に, 他の居住者と助け合える	0.025	0.630	-0.011
	集会室のような共同で使える設備がある	0.190	0.604	-0.010
	居住者同士が気軽に部屋を行き来できる	-0.075	0.563	0.046
	軽い運動や趣味活動ができる設備がある	0.093	0.520	0.137
	自分の経験や知識を活かすことができる場がある	-0.200	0.509	0.308
話し相手になれる職員がいる	0.246	0.448	-0.008	
居住者の自治会が組織されている	-0.105	0.400	0.263	
自律性	好きな時間に入浴できる	-0.053	0.056	0.667
	職員は許可がなければ居室に立ち入らない	-0.119	-0.066	0.610
	居室には鍵がかげられる	0.055	-0.132	0.609
	図書館や映画館など, 外部の施設が利用できる	-0.181	0.099	0.580
	部屋ごとに個別のバス・トイレがある	0.174	-0.192	0.556
	居室は個室か夫婦部屋が利用できる	0.195	-0.144	0.554
	部屋の中で自分の好きな趣味などの活動が行える	0.003	0.086	0.542
	それまでの生活習慣を保った暮らしができる	0.048	0.076	0.519
	食事はいくつかのメニューから選ぶことができる	0.018	0.043	0.518
	備品や生活用品は, 自分の好みのものが使用できる	-0.013	0.073	0.518
1日を通じて自由に過ごすことができる	0.205	-0.002	0.488	
介助が必要になっても個別に入浴ができる	0.146	0.058	0.431	
Cronbachの係数		0.909	0.901	0.855

図1 因子得点でのクラスター分析による志向タイプ



注 単位は人()内%である。

際だって低く, その理由として東京都区内住民を対象としたために現在の住まいが必ずしも静

かな環境ではないことや、「静かな環境」という表現により都市部から離れた立地をイメージした可能性が考えられる。「自律性」の下位カテゴリーである「活動」の内容を示す項目として作成した5項目のうち3項目が、因子分析の結果では他の領域に分類された。内容を検討すると、「安全・快適」の領域に分類された「必要時には付きそいのサービスがあり、希望する時に外出できる」という項目は、「付きそいのサービス」という内容が「安全・快適」の下位カテゴリーである「生活支援」の質を示す条件

として評価されたと解釈できる。「軽い運動や趣味活動ができる設備がある」「自分の経験や知識を活かすことができる場がある」の2項目は「コミュニティ機能」の領域に分類された。この理由としては、活動の場がケア付き住宅の内部にあり、居住者同士の関わりを含む内容であったためと解釈できる。このように事前に領域ごとに作成した項目群がまとまって因子として抽出され、事前の分類と食い違いのみられた項目についても理由が解釈できたことから、「安全・快適」「コミュニティ機能」「自律性」をケア付き住宅に必要な条件を示す異なる3領域として設定することは妥当であると考えられる。

海外におけるケア付き住宅居住者の満足度調査では、「食事」「健康管理」といった具体的な

表4 属性と志向タイプとのクロス集計

(単位 人,()内%)

	総数	個人志向タイプ	交流・快適志向タイプ	平均タイプ	独立・快適志向タイプ	控えめタイプ	χ^2	P
性別 (n = 342)								
男性	139 (40.6)	12 (8.6)	23 (16.5)	64 (46.0)	14 (10.1)	26 (18.7)	10.311	0.035
女性	203 (59.4)	17 (8.4)	57 (28.1)	77 (37.9)	29 (14.3)	23 (11.3)		
家族構成 (n = 247)								
単身世帯	52 (15.2)	8 (15.4)	11 (21.2)	19 (36.5)	5 (9.6)	9 (17.3)	6.937	0.543
夫婦のみ	51 (14.9)	7 (13.7)	11 (21.6)	24 (47.1)	6 (11.8)	3 (5.9)		
夫婦+子供	138 (40.4)	12 (8.7)	34 (24.6)	51 (37.0)	18 (1.0)	23 (16.7)		
健康状態 (n = 342)								
良い	298 (87.1)	26 (8.7)	75 (25.2)	122 (40.9)	38 (12.8)	37 (12.4)	9.299	0.054
良くない	44 (12.9)	3 (6.8)	5 (11.4)	19 (43.2)	5 (11.4)	12 (27.3)		
暮らし向き (n = 342)								
ゆとりがある	263 (76.9)	25 (9.5)	64 (24.3)	110 (41.8)	33 (12.5)	31 (11.8)	7.074	0.132
ゆとりがない	79 (23.1)	4 (5.1)	16 (20.3)	31 (39.2)	10 (12.7)	18 (22.8)		
住宅形態 (n = 334)								
一戸建て	164 (48)	10 (6.1)	41 (25.0)	71 (43.3)	19 (11.6)	23 (14.0)	3.231	0.520
集合住宅	170 (49.7)	18 (10.6)	37 (21.8)	66 (38.8)	24 (14.1)	25 (14.7)		
住宅の所有形態 (n = 330)								
自己所有	274 (80.1)	22 (8.0)	64 (23.4)	116 (42.3)	37 (13.5)	35 (12.8)	4.681	0.322
賃貸・社宅	56 (16.4)	5 (8.9)	11 (19.6)	22 (39.3)	5 (8.9)	13 (23.2)		
高齢期の住み替え計画 (n = 337)								
ある	137 (40.1)	13 (9.5)	31 (22.6)	63 (46.0)	16 (11.7)	14 (10.2)	4.101	0.393
ない	200 (58.5)	15 (7.5)	47 (23.5)	78 (39.0)	26 (13.0)	34 (1.07)		

サービス内容が評価の領域に用いられることが多いが⁽²⁾⁽³⁾、ここで設定した3領域はケア付き住宅の生活に必要な要素をより包括的に示したものである。これまでの調査で佐々木ら⁴⁾は、在宅生活者に対するインタビューの質的分析により居住型サービスには「安全で快適な生活」と「主体的な生活」が求められていることを示しており、本研究では「コミュニティ機能」の領域を新たに設定したことで、ケア付き住宅での住まい方をより多面的に説明できる枠組みとなっている。シルバーハウジングを対象にした調査でも高齢者の生活における近隣交流の重要さとそれを促進するための住戸計画の必要性が指摘されており⁵⁾、「コミュニティ機能」はケア付き住宅での生活の質を評価する重要な要素になりうると思われる。

質問項目の内容に対する期待度を示す平均得点では上位10項目中8項目が「安全・快適」の領域の項目で、「安全性と快適性」はケア付き住宅では当然満たされるべき機能と見なされているものと思われる。平均得点が低い10項目では「コミュニティ機能」に属する項目が7項目を占めた。この領域では評定のばらつきが大きく、個人の価値観によって志向性の違いが大きいことが示された。「どちらともいえない」との回答が多いことも特徴であり、良い人間関係を持ちたいという気持ちと人付き合いで嫌な思いをしたくないという相反する感情を示していると考えられる。居住者間の人間関係に関わる要素だけに、「コミュニティ機能」に関しては利用者それぞれのニーズの違いに一層の配慮が必要である。

因子得点を用いたクラスター分析による志向タイプの性格を検討すると、第1クラスターでは「コミュニティ機能」に対する期待度が低いことが特徴で、「個人志向タイプ」とした。このグループは集団生活を前提とした従来型の福祉施設に対する志向性は希薄と思われる。第2クラスターは「コミュニティ機能」に対する期待度が際だって高く、「安全・快適」の得点も5クラスターの中で最も高かったことから「交流・快適志向タイプ」とした。本研究における質問に対する評定値は利用者としての要求水準を反映していると思えることができるが、このタイプではケア付き住宅に対する要求水準が全般に高く、自分の要求を口にすることが少ない現在の利用者とは異なる新しい利用者像を表している可能性がある。澤岡⁹⁾は軽費老人ホームとシニア住宅居住者を対象とした調査で、新しいタイプの「自己実現型」高齢者の存在を示し、軽費老人ホームは適応しにくい住宅形態であるとしている。「交流・快適志向タイプ」の割合は23.4%と全体の約1/4を占めており、団塊世代の高齢化につれて新しいタイプの高齢者が増加し、既存の施設では充足されない新しいニーズが顕在化することを示唆している。第3クラスターは最も大きい集団で、3領域すべてにおいて平均的な期待度を示したために「平均

タイプ」とした。第4クラスターは、「自律性」の得点が5クラスター中最も高く、「安全・快適」に対する要求も強い一方で、「コミュニティ機能」に対しては平均よりやや低い期待度を示している。自分自身の生活を大切に、自宅内で快適に過ごしたい意向を示すものと解釈して「独立・快適志向タイプ」とした。第5クラスターは3領域全てにおいて期待度が低く、全体に要求水準が低いグループであるために「控えめタイプ」とした。

これらの志向タイプと属性との関連では性別のみに有意差が認められ、女性では「交流・快適志向タイプ」が多く「控えめタイプ」が少なかった。ケア付き住宅の利用者は女性の方が多いため、将来のケア付き住宅には要求水準の高い女性利用者の意向を反映させることが重要になる。有意差は認められなかったが、健康状態が「良い」グループでも同様な傾向がみられた。健康状態が良くない場合には、実際のニーズとしては「安全・快適」や「コミュニティ機能」に対する必要性が高まると考えられるが、この結果からは健康状態が低下すると生活全般についての要求水準が低下する可能性が示唆された。利用者の要求をサービス内容に反映させる際には、実際のニーズが高い集団でかえって要求水準が低くなる可能性に留意が求められる。

課題として、本研究の有効回答割合は11.3%にとどまったためにこの結果を直ちに一般化することはできない。ただし、有効回答数は342と多変量解析に耐えうる数であり、今後地域や属性の異なる他の集団に対する調査を行い、ここで得られた3因子の再現性と期待度の特徴を検討していく必要がある。

おわりに

本研究では団塊世代が将来のケア付き住宅に求める条件として、「安全・快適」「コミュニティ機能」「自律性」の3領域を設定した。「安全・快適」はこれまでの高齢者施設において最も重視されてきた機能であるが、団塊世代が高齢化する時代には「安全・快適」は当然の前提

として自らの価値観に基づく「自律性」が強く求められてくるものと考えられる。さらにケア付き住宅を「住まい」として考えた時には、通常の市民生活での近隣づきあいに相当する「コミュニティ機能」の充実が課題となってくる。

回答者の志向タイプでは、全体的に要求水準が高い「交流・快適志向タイプ」が全体の1/4を占め、女性でこの割合が有意に高かった。ケア付き住宅の利用者には女性が多く、今後のケア付き住宅ではこのタイプの要求を満たすサービス水準が必要になることが示唆された。

本研究は、平成17年度厚生労働省老人保健健康増進等事業の一部として行われた。

文 献

- 1) 高齢者介護研究会．わが国の高齢者介護における2015年の位置づけ．2015年の高齢者介護．東京：法研，2003；80-5．
- 2) Elzbieta Sikorska-Simmons. Development of an Instrument to Measure Resident Satisfaction With Assisted Living. *Journal of Applied Gerontology* 2001；20：57-73．
- 3) Shu-Chiung Chou, Duncan P. Boldy, Andy H. Lee. Measuring Resident Satisfaction in Residential Aged Care. *The Gerontologist* 2001；41：623-31．
- 4) 佐々木千晶，今井幸充．高齢期の居住型ケアに対する在宅生活者の要望．*社会福祉学* 2005；46(2)：85-98．
- 5) 巖平，横山俊祐．シルバーハウジングにおける近隣交流の特性と空間的課題．*日本建築学会計画系論文集* 2002；554：109-16．
- 6) 沢岡詩野．シニア住宅と軽費老人ホームにおける自立高齢者の欲求と入居後の適応状況に関する研究．*日本建築学会計画系論文集* 2003；564：251-5．